



冬のボーナスカットを許さないぞ！シリーズ⑰

年末手当

## ユニオン、会社を評価し即刻妥結 組合員の切実な要求は無視なのか？

『ぎょうむそくほうダイジェスト』No.524によると、2020年度年末手当の交渉でJR東海ユニオンは回答日当日（11月11日）の11時10分に妥結したことを伝えました。この時刻は、JR東海労が団体交渉を始めたばかりの時間です。

この情報で、JR東海ユニオンは「今回回答が、組合員の想いをこめた要求との乖離は大きいものの」としつつ、「会社がこの間の議論経過および将来宣言に基づく労使関係、組合員・社員の尽力を踏まえ、**現段階で出し得る精一杯の回答である**旨を確認した」とコメントしています。つまり、文句を言うどころか、逆に精一杯の回答と評価しているのです。要求との乖離が大きければ、そこをアピールすべきではないでしょうか。

JR東海ユニオンの中でも、「**安定的支給ベース2.9ヶ月は出すべきだ**」というような意見が出されていました。その意見はどうなったのでしょうか。情報に記された「痛恨の極み」で片付けるのでしょうか。**住宅ローンを抱えている若手組合員は、「支払いができず困っている」と嘆いています。**会社は持ち家制度を推進するために、年齢を区切り社宅費を2倍3倍と上げているのです。

さて、「現段階で出し得る精一杯の回答」は事実なのでしょうか？会社には3兆6,000億円以上もの内部留保金、つまり私たち社員が稼いだ金＝儲かっても出すのを渋って貯めていた金があります。会社は3.5ヶ月出す体力はあると表明しました。役員報酬はたかが10%カットで社員は27%カットです。リニア建設には9兆円もの資金があります。これが精一杯の回答だと、誰が信用するのでしょうか。

JR東海労は、再申し入れの団体交渉で、全社員の意見をぶつけていきます。